

第 27 回テニスの集い (10 月 22 日・23 日)

関 賢治(2 組)

還暦の同期会から始まった同期テニスの集いが喜寿の年も継続できた。年 2 回 軽井沢と埼玉県での開催も 27 回を数えることとなった。

参加者は まだまだ現役歯科医の布施修一郎会長(6 組)、9 月下旬東京有明コロシアムで開催されたジャパンオープンで第 1 シードのアルカラス選手が勝利後に観客席に打込んだ自筆サインボールを幸運にゲットした筑波大での講義を休講して参加の原田義則君(3 組)、奥方と御代田の実家の断捨離ついでに参加の内堀信君(6 組)、テニスは遠慮するが前夜祭を楽しみと参加の塩川明男君(6 組)、10 月上旬に終の棲家を京都に移し まだ家の整理もままならない中、インターネットが繋がらないとぼやきながら参加の佐藤徹郎君(7 組)、テニスの合間に仕事をしている筆者(関、2 組)の計 6 名(+内堀奥方)が 10 月 22 日夕刻、グラウンドエクシブ軽井沢に集合した。常連の宮澤憲一君(10 組)と若柳直人君(4 組)は奥方の通院の付添いでやむなく不参加、家庭円満の為には最善である。浅倉英樹君(4 組)は膝の調子が思わしくなく不参加。少し寂しい参加者数であった。

前回までは 2 時間ほどテニスを楽しんでからの前夜祭だったが、参加者が少ないこともありテニスは中止となった。前夜祭は恒例の中華料理「翠陽」で皆の顔が見える円卓で開始した。色々な話題が出たが AI の未来、人類とロボットが特に盛り上がった。

翌 23 日がテニスの集い本番である。参加者が少ないので、6 年前の 21 回開催時に参加していただいた 75 期卒で、上田高校・金沢大学のテニス部で活躍された最強の助っ人の櫻井雅文さん(布施会長の知人)を加えた 6 名で、朝 9 時より 4 時間 ペアを組み替えながら皆が 6 試合を楽しんだ。試合結果は布施会長の 6 連勝で幕を閉じた。

古希まではと続けて来たテニスの集いもいつの間にか喜寿まで続いた。これからは何時とは決めずに参加者が 3 人になるまで続ける事とした。ラケットを杖代わりにコートに立つも、いざボールが飛んでくれば長年の性で足が動いてしまう。いつまでも健康であれ！

来春 蕨(埼玉県)での再会を約束して解散した。

(2025.10.27 記)

次ページに写真



前夜祭 翠陽にて

左より

関、佐藤、布施、塩川、原田、内堀

後列 関

内堀奥方

前列 原田、塩川、内堀、布施、佐藤

テーブルの真中にアルカラス選手の
サインボール



エクシブ軽井沢内のテニスコートにて

左より 佐藤、布施、関、内堀、原田、桜井さん